

交流分析に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 交流分析では、感情的な不適応を生み出すのは出来事ではなく、その人の非合理的な信念体系であるとし、非合理的な信念を合理的な考え方に修正していく。
- イ. 交流分析では、対人関係のパターンを分析するゲーム分析や人が無意識に演じている脚本分析などを行う。
- ウ. 交流分析では、人間は劣等性を持つ存在であるとし、劣等感を補償するために、より強く完全になろうという意志を「権力への意志」と呼んで重視する。
- エ. 交流分析に基づいて開発された性格検査法にはエゴグラムがあり、親、大人、子どもの自我状態からパーソナリティの特徴を捉える。

- 1. ア, イ
- 2. ア, ウ
- 3. ア, エ
- 4. イ, エ
- 5. ウ, エ

「9歳の壁」(「10歳の壁」)に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 近年では栄養状態が改善され身体的発達はよくなっているものの、9歳前後の児童期の運動機能の低下が顕著になっていることである。
2. セルマン (Selman, R.L.) による社会的視点取得の発達において、未分化・自己中心的な視点の水準から、主観的・分化した視点の水準にいたる難しさのことである。
3. 学力の個人差が拡大し、その学年に期待される学力を形成できていない子どもの数が増加する現象のことである。
4. エリクソン (Erikson, E.H.) が提唱した、この時期に訪れる「勤勉性 対 劣等感」という心理社会的発達課題のことである。
5. 9～10歳前後の急激な身体的変化において、男子の成長のピークが女子よりも遅れることである。